

2011年度

| | | | | |
|---------------------|---|----|-------|----------|
| 科目名 | 西洋史学B | | | |
| 担当教員 | 小林 典子 | | | |
| 配当 | 文 1・教福1・人社1 | | コード | 22005 |
| 開期 | 後期 | 講時 | 火曜日2限 | 単位数 2 |
| 授業テーマ | 近代的社会システムのルーツを考える | | | |
| 目的と概要 | 現代グローバル社会は、かつてヨーロッパが生みだした近代社会システムの理念と遺産の上に築かれています。「ヨーロッパ近代」はわたしたちの生活に、自由と豊かさという恵みをもたらし、日本人にとっては遠いあこがれの対象でありつづけてきました。けれども同時にそれは環境破壊や国際紛争など地球的規模の問題をかかえこんできていることも確かです。21世紀の冒頭にたつ今、ますます「ヨーロッパ近代」の意味とその価値が問われることでしょう。ヨーロッパの歴史の流れをその始原にさかのぼりつつ、とくに近代のフランス革命に焦点をあてて概観し、理解を深めます。 | | | |
| 成績評価法 | 学期末に提出するレポート(70%)+平常点や授業時のミニ・レポート(30%) | | | |
| テキスト | 授業時に資料配布 | | | |
| 参考書 | 『<ビジュアル版>ヨーロッパの革命 二重革命の時代—フランス革命と産業革命—』(逕塚忠躬 講談社) その他必要に応じて指示 | | | |
| 履修に当たっての注意・助言 /準備学習 | 覚える歴史でなく、考える歴史へと発想転換し授業にのぞんでほしい。 歴史の最前線としての、わたしの今・ここルーツを学ぶという姿勢を評価します。 レポートは授業内容との関連を重視するので、しっかりとノートを取ること。 | | | |
| 講義計画 | | | | |
| 第1回 | 後期開講にあたって：授業プログラムとオリエンテーション —アーノル学派から読み解く中世からフランス革命へ— | | | |
| 第2回 | 新しい西洋史：フランス現代「アーノル」学派の試み | | | |
| 第3回 | 近代の誕生 | | | |
| 第4回 | 近代の開幕 | | | |
| 第5回 | 啓蒙の世紀 | | | |
| 第6回 | フランス革命の背景 | | | |
| 第7回 | 立憲王政の成立 | | | |
| 第8回 | 民主的共和制の成立と革命の終焉 | | | |
| 第9回 | 近代市民社会（ブルジョワの世紀） | | | |
| 第10回 | アーノル学派さまざまな言説の誕生 | | | |
| 第11回 | アーノル学派さまざまな言説の誕生 | | | |
| 第12回 | パリ万博と近代都市計画 | | | |
| 第13回 | パリ万博と近代都市計画 | | | |
| 第14回 | 「近代」がかかる問題：「普遍」と「個人」 | | | |
| 第15回 | まとめ | | | |